

(様式6)

公共事業新規箇所評価調査

評価確定日(平成25年09月09日)

事業コード	H25-建-新-02			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(交通安全)			部局課室名	建設部 道路課
事業種別	歩道設置事業			班 名	道路環境・維持班 (tel) 018-860-2483
路線名等	一般県道 根瀬尾去沢線			担当課長名	柴田公博
箇所名	鹿角市松館			担当者名	武藤秀男
総合計画との関連	政策コード	15	政策名	安全・安心なまちづくり	
	施策コード	01	施策名	安全・安心な地域づくりの推進	
	指標コード	04	施策目標(指標)名	交通環境の改善	

1. 事業の概要

事業期間	H26 ～ H30 (5 年)		総事業費	6.8 億円		国庫補助率	0.7
事業規模	延長 L=1,380m 幅員 W=6.0(11.0) (2.5-1.25-3.0-3.0-1.25)						
事業の立案 に至る背景	一般県道根瀬尾去沢線は、鹿角市八幡平根瀬と鹿角市尾去沢を結ぶ県道である。鹿角八幡平地区住民の生活道路として利用されるのはもとより、国道282号、国道341号の代替路線としての機能を有する重要な路線である。 当該区間は通学路に指定され地域の児童が利用しているが、歩道が設置されていない。また車道の幅員も狭く、急カーブも多いことから事故が多発している。(平成8年～23年で13件発生) 地元町内会および鹿角市からも要望を受けていることから、早期に整備を実施する必要がある。						
事業目的	○通学路における児童の安全確保 ○幅員の確保による車両通行の安全性向上 ○線形不良区間の改良による見通しの改善						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度以降
	事業費		674,000	31,000	105,000	200,000	338,000
	経費 内訳	工事費	423,000		60,000	160,000	203,000
		用補費	181,000		20,000	40,000	121,000
		その他	70,000	31,000	25,000		14,000
	財源 内訳	国庫補助	471,800	21,700	73,500	140,000	236,600
		県 債	181,980	8,370	28,350	54,000	91,260
		その他					
		一般財源	20,220	930	3,150	6,000	10,140
	事業内容			路線測量、詳細設計、用地測量、地質調査	用地測量、建物調査、橋梁設計、本工事	用地買収、建物補償、本工事	用地買収、建物補償、本工事
調査経緯	○平成21年度 道路概略設計 ○平成22年度 道路予備設計						
上位計画での 位置付け	○ふるさと秋田元気創造プランにおける「社会資本整備」を行う事業						
関連プロジェクト等	○第6次鹿角市総合計画前期計画(H23～27)交通安全対策事業 ○第9次鹿角市交通安全計画(H23～27)を支援する事業 ○鹿角地域振興局重点施策『北東北の観光の中核を担う「十和田八幡平エリア」の広域観光の推進』						
事業を取り 巻く情勢の 変化	○地元町内会および鹿角市から要望書が提出されている。(町内会:平成24年度、鹿角市:平成25年度)						
事業効率把 握の手法	指 標 名	歩道整備率					
	指 標 式	実績延長／道路延長					
	指 標 の 種 類	○ 成果指標 ● 業績指標			低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	39.4 %			データ等の出典	道路課調べ	
	達 成 値 b	39.0 %					
	達成率 b／a	99.0 %			把握の時期	平成25年 4月	

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○当該区間は松館地区の児童が通学路として利用している。 ○計画区間の前後は歩道設置済みであり、整備により連続性を確保できる。 ○急カーブ区間や線形不良区間において、視距の確保の必要がある。 ○道路幅員が狭く堆雪幅が確保されていないため、特に冬期においては歩行者、車両とも通行が困難である。	25 点
緊 急 性	○当該区間における事故件数は13件(平成8～23年)で児童との接触事故、冬期のスリップ事故、急カーブ区間における事故など、様々な原因による事故が発生している。	25 点
有 効 性	○当該区間は通学路であり児童の安全確保に有効である。 ○周辺には公共施設が多く、整備による周辺住民の利便性の向上が期待される。 ○歩道設置による歩行者の安全確保はもとより、線形改良を併せて行うことで通行車両の安全と良好な走行性を得ることができる。	15 点
効 率 性	○5年以内に供用開始が可能であり効果の出現が早い。 ○現道拡幅部については効果の出現が早い。	10 点
熟 度	○地元および鹿角市から要望書が出されている。	15 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 判定ランク I であり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	90 点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評価結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該路線は、沿線地域の生活道路(通学路)や国道282号線等の代替機能を有する重要な路線であるが、歩道もなく車道幅員が狭いことや、急カーブが多いことなどから、事故も多い区間である。そのため、歩道の設置と幅員の確保等は、交通の安全性確保の観点から、必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該区間は、生活道路及び通学路として利用されているが、幅員が極小のうえ、歩道もなく、きついカーブが存在することで過去に事故も発生するなど、事業実施の優先度は高い。不必要と考えられる歩道を設置しない(片側設置)ほか、補償費が過大とならないよう補償物件が少ないルートを選択するなど、コスト削減の観点からも妥当である。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード (H25-建-新-02)
箇所名 (鹿角市松館)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配 点	評価点	摘 要
必要性	1 2 時間自動車交通量	4,000台/日以上 1,000台/日未満 1,000台/日以上	10 0 5	5	通学路以外の場合 通学路の場合
	歩行者交通量	100人/日以上 100人/日未満 学童・園児 40人/日以上 学童・園児 40人/日未満	10 5 10 5		
	歩道の連続性	計画区間前後に歩道あり 計画区間前後の一方に歩道あり 計画区間前後に歩道なし	10 5 0	10	
	道路線形の修正 (視距の確保等)	有り 無し	5 0		
	計		35	25	
緊急性	関連事業の有無	有り 無し	5 0	5	
	事故状況 死傷事故 事故件数	歩行者の死傷事故あり 歩行者の死傷事故なし 6件以上 1～5件 なし	10 0 10 5 0		
	計		25	25	
有効性	交通安全指定道路	有り 無し	5 0	5	
	通学路指定	有り 無し	5 0		
	公共施設	有り 無し	5 0	5	
	計		15	15	
効率性	供用開始までの期日	5年以内に供用開始が可能であり、効果の出現が早い 供用開始まで6年から7年の時間を要する 供用開始まで8年以上と相当時間を要する	10 5 0	10	
	計		10	10	
熟度	地元の協力体制	事業に協力的 用地反対等の問題あり	10 0	10	
	市町村の参画	要望書提出済み 要望書は未提出	5 0		
	計		15	15	
合 計			100	90	

2. 判定

ランク	判定内容	配 点	判定	摘 要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		